

來神。河流滔々流入于海門、其河源出于南部大岳、經膽澤江差等處々郡縣村落、繫回屈曲而臻茲地、南郊之於逢隈、北郡之於來神、是封內之巨川也。

〔吾妻鏡九〕文治五年九月廿七日甲申、二品賴○源朝歷覽安倍賴時本名賴衣河遺跡給○中左鄰高山右顧長途南北同連峯嶺○略至于四五月殘雪無消、仍號駒形嶺麓有流河而落于南是北上河也、衣河自北流降而通于此河。

〔奥の細道〕三代の榮耀、一睡の夢にして、大門の跡は一里こなたに在り、秀衡があとは田野になりて金鶏山のみ形を遺す、先づ高館に登れば、北上川南部より流る、大河なり、衣川は和泉が城を遡りて高館の下にて大河に落ちいる。

〔東遊雜記二十二〕北上川は、先達て聞しとは大に違ひし大川にて川幅も廣く水深し、千石の船帆を懸、何方へも勝手よき所へ走り、心まかせの川也。

〔書言字考節用集二乾坤〕最上川^{モガガ}_{上郡}最

〔類聚名物考地理三十三〕最上川 もがみがは 陸奥國、信濃

この河一名二所あり、源重之集に見えしは信濃國なり、又古今集その外に稻舟をよみしは此と同じからず、出羽國にあり、最上山同所に有り、

〔古今和歌集二十一〕陸奥歌

最上川のばればくだる稻舟のいなにはあらず此月ばかり

〔奥の細道〕最上川は陸奥より出で、山形を水上とす、ごてんはやぶさなどいふおそろしき難處あり、板敷山の下を流れて、果ては酒田の海に入る、左右山おほひ、茂みの中に舟を下す、これに稻積たるをや稻舟とはいふならし、白糸の瀧は青葉のひま／＼に落ちて、仙人堂岸に臨みて立ち、水漲りて舟あやふし、